

岩屋山金峯寺いはやさんきんぶつじ〔出谷村の北にあり。洛陽らくやうより五里、一鳥居より十六町あり〕真言宗にして樓門ろうもんに金剛力士こうがうりきしを安ず。

額は岩屋山いはやと書して後奈良院ごならのいんの宸筆しんぴつなり。本堂〔崖造りにして山腹さんぷくにあり〕本尊不動明王ほんぞんふどう〔立像五尺余〕弘法大師こうぼうの作なり。脇士びしは毘沙門びしゃもん、地藏尊ちざうそんを安置す。又脇壇わきだんには弘法大師こうぼうの像あり。大日堂だいにちだうは本堂の西にありて、則大日如来だいにちによらいえんのぎやう役行者じやくぎやう者を安ず。

抑当山は、久代天神そのかみてんしん医道いだうの祖神そしん薬王やくわう菩薩ぼさつと化して出現し給ふ靈場なり。其後孝徳天皇かうとくてんわうの御宇白雉元年に、役優婆塞やくうぱさいはじめて澗道まんだうを踏わけ此山に登り、数月禅定ぜんぢやうを修し、薬師如来やくしにょらいの靈告れいこくを得て当山を開基す。又厥後淳和天皇じゆんわてんわうの御宇天長六年に、弘法大師こうぼうだいし此山に登り給ふに、神童出現して曰、我尊者をこゝに待事久し、早く三密さんみつの秘法ひぽうを修し王城わうじやうを鎮護ちんごし、且一切衆生の諸願しよげんを成就し病悩びやうなうを扶助し給へと教へ。われは当山の守護神しゆごじんなりとて、飛龍ひりゆうと化し忽瀧いづみに入給ふ。是によつて大師飛龍だいしひりゆう権現こんげんと崇め、瀧たきのうへに勧請くわんじゆし給へり。尚又権現こんげんの告によつて大師だいしみづから不動尊ふどうそんを彫刻てうこくし、一千座いっせんざの護摩ごまを修し給へり、是当寺の本尊ほんぞんなり。

○奥院おくのいん〔本堂のうしろの巖上いんじやうに建、崖造にして西向なり〕本尊不動明王ほんぞんふどうみやう〔立像五尺余〕宇多天皇うだてんわうの御願ごげんによつて菅神くわんじんの制作せいぞうなり。〔代々御即位ごぎきの節は、勅詔ていしよによつて宝祚ほうそ延長天下安全てんかぜんぜんの御祈禱ごせんだうとして御戸ごこ開あり〕

○天神宮てんじんぐう〔堂前の左にあり〕当山の鎮守ちんしゆとし給ふ。遷宮せんぐうの時桜さくら一株一夜いっしゆいちやに生ず、故に桜天神さくらてんじんと号く。

○飛龍瀧ひりゆうのたき〔本堂の後にあり〕岩屋瀧いはやのたきとも称す、瀧たきのうへに飛龍ひりゆう権現こんげんの祠ひらあり、又瀧壺たきかのかたはらに飛龍童子ひりゆうどうじの影向石えいがうせき

あり。風狂の者当山に籠りて本尊を礼拝し、瀧に浴する事日毎に三度にして平癒を祈れば忽驗あり。

○弘法大師護摩洞キチガヒ〔瀧のうへにあり〕此所において大師密法を修し給へり、一丈余の洞窟なり。此ほとりの石毎に経

文鮮に居れり、是大師の所作といふ。

○香水かうすゐ〔奥院おくのゐんのうへにあり〕巖窟より滴出す、薬王薩やくわうさつた■此水を穿出して諸薬を灌洗スゞギアラヒし給へり、これによつて其香今に

おいて自然に薫る。もろくの病苦の者これを服するに癒ずといふ事なし、末代といへども此香水かうすゐの誉世に高し。又かの薩さつた■仙人せんじんに化して諸薬を調じ給へる旧跡山上にあり。

雌めんどりのやしろ社いはやとりゐ 岩屋鳥居